

ジンチョウゲ . . .



誰にでも
やさしい言葉が
かけられそうな気がする
沈丁花の香り
ただよってくる朝

(星野富弘「鈴の鳴る道」より)

20年前、初めてこの本を手にした時の感動は今も忘れられません。その第1ページ目を飾るのがジンチョウゲです。春3月、百花繚乱の季節の幕開けを告げる花と言っていいでしょう。当団地では、8号棟と9号棟の間に数株植栽されています。

学名は「Daphne odora」ですが、「Daphne」（ダフネ）とは、ギリシャ神話の女神の名であり、月桂樹のことでもあります。アポロンに求愛を迫られ自らの身を月桂樹に変える話は有名です。葉の形が似ているので、ジンチョウゲ属の属名に使われました。「odora」は、「芳香のある、香りのいい」の意味で、まさにその香りは大きな特徴となっています。

中国原産で、室町時代に渡来しました。「ジンチョウゲ（沈丁花）」という名前も、沈香（じんこう：特に良質のものが「伽羅」）の香りと、丁子（ちょうじ：香辛料のクローブ）の香りを併せ持っているということから付けられました。かなり離れていても匂ってきますし、その香りは、夏のクチナシ、秋のキンモクセイに並びます。漢名の「瑞香（ずいこう）」も、やはりその香りに由来しています。

かといって、花に鼻を近づけると、かなり強烈で興奮めさえします。何事も過ぎたるは及ばざるが如しということでしょう。そう言えば、公園の公衆トイレの近くに必ず植栽されていると思うのは、私の思い過ごしでしょうか。

花芽は前年の12月頃からできていますが、実際に咲き出すまで厳寒の中3ヶ月ほどじっと耐えて過ごします。つぼみは濃紅色ですが、咲いてしまうと白っぽくなります。枝の先に20近くの小さな花が手毬状に固まってつき、その花を囲むように葉が放射状に広がります。時



々、花の形がよく似ていて黄色い花を目にしますが、これはジンチョウゲではなくオニシバリ（鬼縛り/下写真）です。

最後に、冒頭の詩とは全く趣の異なる、石川さゆりの「沈丁花」の歌を贈り、この花への思いを深めていただければと思います。



降りしきる雨の吐息に
濡れて傾く沈丁花
許されぬあの人と二人
忍び歩く坂道
 思い切れない人だから
 思い切れない恋だから
 ひたむきに燃える心
 二人でいても何故か寂しい
 夜明けの裏通り